

応募方法

1人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内（未発表のものに限る）。はがきに作品・住所・氏名・応募する壇名をはっきり書き、〒989-0292 白石市大手町1-1白石市総務課へ。はがき一枚に短歌、俳句、川柳の併記は不可。
毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。（☐koho@city.shiroishi.miyagi.jp）

市民文芸

歌壇 岩崎聰之介 選

九十一歳の鈍さにも寛容卓球はいい皆に謝しつ
つ例会を終ふ 齋藤 巖
錆びたる鎌これはこれはも亡夫の形見納屋から
見つけ研ぎて使うも 菊地せつ子
優しやな 笑み湛えつつドアをあけ清しき花々
下さる友あり 佐藤喜恵子
一本のシシトウの果実手に余り緑どっさり帽子
に入れつ 末吉アツ子
しとしと一日雨なり夕餉の菜つくる気も失す
老いたるゆえか 村上八重子
姑と近所の人ら集って「お茶っこ」してた昭和
の日々よ 佐藤 啓子
ひねくれたガキの時代をわが恩師尖った心をま
るくなされし 我妻 孝則
立秋の山の草刈り汗まみれ山百合の香は宝石の
何か 後藤今朝雄
好物のスイカを安く買いたくて広告、チラシし
げしげと見つ 佐藤ひろ子
北海道より姪とその子ら夏休みとてわが白石に
来たる うれしも 阿部かつみ

「一首目、鈍さにも寛容が自らの老いと皆さまのお
気持ちをうまく繋いでいる。結句もしっかりと締ま
り、響きがある。」
二首目、形見だからと仕舞うわけでもない。旦那
さまのお力が今にこもるものであろう。
三首目、やはり感動を表すことば。施設のお友だ
ちか、忘れ得ぬ或る日の出来事。

俳壇 山家弘子 選

花と香に一寸気取って薔薇ロード 菊地せつ子
梅雨晴間胡瓜はすぐに巨大化し 平間 幸恵
広大な青田を漁る鷺の群 末吉アツ子
はしやぐ脇波間漂うサングラス 佐藤 隆志

柳壇 四竈英夫 選

雨露に濡れて輝く蜘蛛の囲よ 大庭美智子
輝きて向日葵と咲き誇り 菊川いつ子
天守閣登れば過ぎる秋の風 星 明
螢草籠に敷きつめ追った日よ 村上八重子
梅雨明の宣言ありて雨が降り 木村 芳春
特売の猛暑に負けず混雑す 佐藤 啓子
「一首目、薔薇園の、色とりどりの豪華な花と香りに
囲まれ歩いてみると、王女さまになった心地がす
る。いつまでも若々しく明るく楽しく生きる。素晴
らしい。」
二首目、毎日取って食べているが、取らずにいた
のがヘチマのように大きくなっているのに驚く。生
命力のたくましき。
三首目、海のように広い青田に真つ白な鷺が点々
と見えるさまは清々しく美しい。

孫が来る朝から鼻歌とびにけり 村上八重子
米騒ぎ稲は気にせず出穂期 遠藤 松雄
返信の来るはずのなき友増えり 木村 芳春
閑かなる山里暮らし人恋し 菊地せつ子
猛暑日は道路もイヤだと怒ってる 佐藤 啓子
「よいしょ」と魔法の言葉今日も掛け 末吉アツ子
老い二人バーゲン西瓜値踏みする 星 明
城の堀鯉の泳ぐや水澄めり 大庭美智子
人徳よ仲間に恵まれ日々楽し 志村かつい
箱ワナをクマ学習し迂回する 菊川いつ子
「一首目、孫が来る日は朝からご機嫌。つい鼻歌も
出てくる。でも、やんちゃな孫に手を焼くことも。
「孫が来て嬉し帰ってまた嬉し」。
二首目、米不足のほすが一転米余り。世の中は米
に振り回されている。でも、稲は今年も出穂期を迎
えている。何事も無かったように。
三首目、身近な人が亡くなることも多くなる。「返
信の来るはずの無き」に寂寥の思いが込められてい
る。「そして誰もいなくなった」。

Shiroishi Market

フレッシュマーケット

～地元農産物の魅力を発信～

地元の農産物や直売所などの魅力をお届けします。
～白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進！～

市内の農産物
直売所情報▶



▲看板と赤いのぼりが目印です



▲地元の方から市外の方まで、幅広いお客さんが利用しています

直売所紹介「馬牛沼産直センター」

斎川地区の生産者が手がける自慢の農産物や加工品を販売。地元で収穫した朝どりの新鮮野菜が人気です。毎年好評の「新米まつり」は、10月17日(土)～31日(土)に開催。蔵王のおいしい水と粘土質で作られた「斎川米」の新米をお得に入手できる機会です。皆さんぜひお越しください！

- 営業時間 火・木・土・日 9:00～12:00
- 住所 斎川字馬牛1-3（国道4号沿い馬牛沼付近）
☎25-0520

☎農林課 ☎22-1253

皆さんからのすてきな情報を待っています！／

まちかどズームイン



▲白石市選抜チーム(左)と海老名市選抜チーム(右)が並び

野球を通して深まる絆

海老名・白石姉妹都市親善少年野球交流大会

8月22日、姉妹都市の神奈川県海老名市から少年野球選抜チームが白石市を訪れ、益岡公園野球場で交流大会が開催されました。大会は、スポーツを通して両市の子どもの友情と相互理解を深めることを目的に行われています。当日は、選手たちが元気いっぱいプレーし、会場から大きな歓声が上がりました。



▲安藤名人(中央)にこまの回し方を教わる子どもたち

伝承遊び「こま回し」と交流

こじゅうろうキッズランド8周年記念イベント

8月22日、こじゅうろうキッズランドで全日本こま回しの会会長の安藤正樹名人によるこま回しイベントが開催されました。これは、8月21日に8周年を迎えたこじゅうろうキッズランドの記念イベントとして実施。来場者は目の前で披露される名人芸に目を奪われるとともに、名人からこまの回し方を学ぶなど、伝承遊びと触れ合いました。



1_子どもたちはプロの強さと温もりを肌で感じました 2_地元宮城県で力強い取組を披露する時疾風関(右) 3_圧倒的な存在感を放つ横綱・大の里関の土俵入り

力士の技と気迫に酔いしれて

令和八年夏巡業 大相撲白石場所

8月9日、ホワイトキューブで「令和八年夏巡業大相撲白石場所」が28年ぶりに開催されました。この日は、宮城県栗原市出身の前頭・時疾風関など110人の力士が参加。会場には朝から多くの観客が詰めかけ、取組での力士たちのぶつかり合う音や、間近で見るダイナミックな技の数々に、観客からは大きな歓声と割れんばかりの拍手が送られました。

この日は、白石三省塾柔道スポーツ少年団と白石空手道スポーツ少年団の子どもたちが力士に胸を借りて元気に稽古に励むコーナーも設けられ、大きな力士たちに勇敢に立ち向かっていく子どもたちに温かい声援が送られました。会場に響き渡った大きな歓声と熱気は、訪れた人たちの心に刻まれる思い出となり、特別な一日となりました。